

芸術祭の経済効果

北川フラム

奥能登国際芸術祭

石川県珠洲市
2017~ (第2回:2021)

大地の芸術祭

越後妻有アートトリエンナーレ

新潟県十日町市・津南町
2000~ (第8回:2022)

瀬戸内国際芸術祭

香川県・岡山県の10市町
2010~ (第5回:2022)

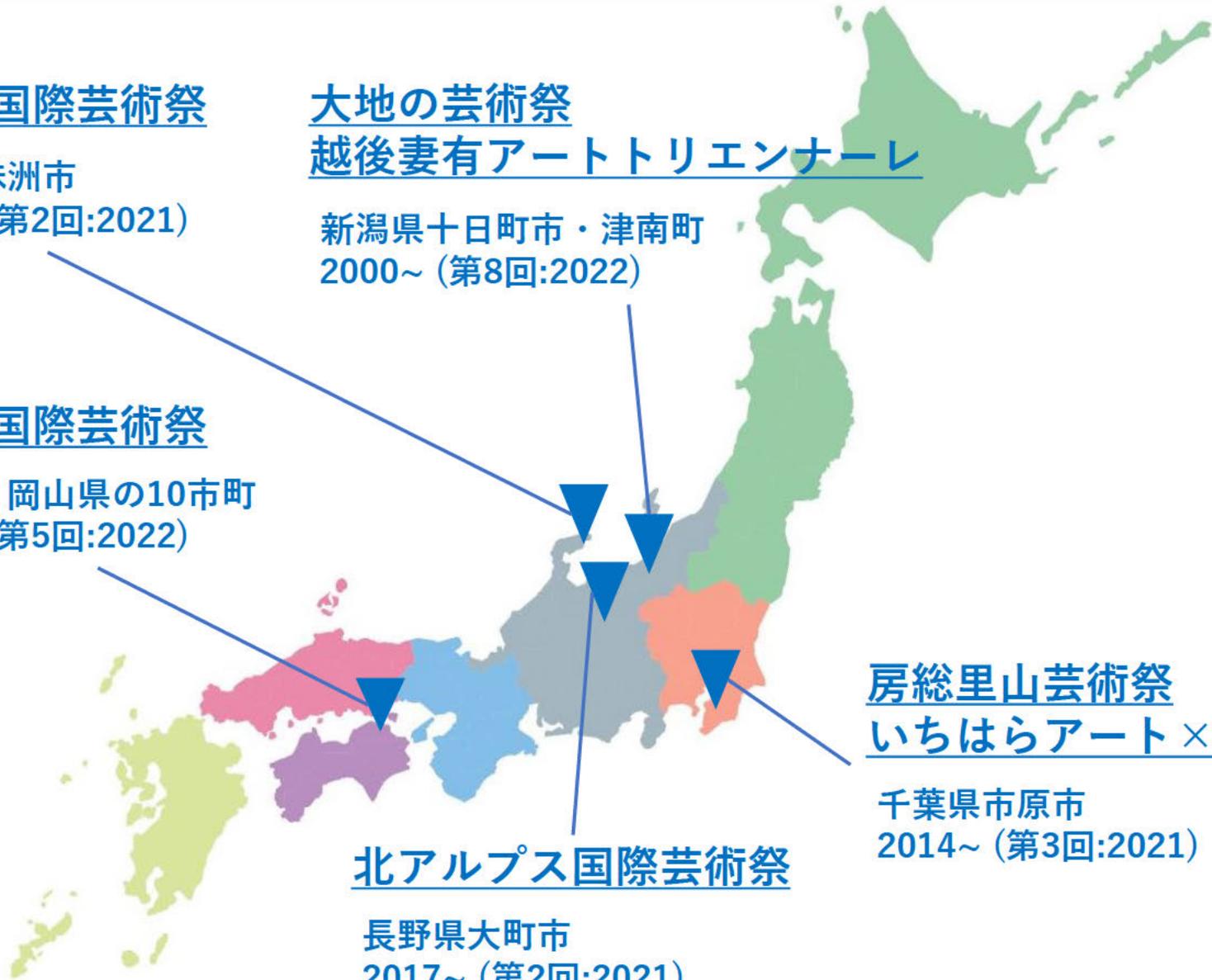
房総里山芸術祭

いちほらアート×ミックス

千葉県市原市
2014~ (第3回:2021)

北アルプス国際芸術祭

長野県大町市
2017~ (第2回:2021)



ECHIGO-
TSUMARI
ART FIELD 2022



大地の 芸術祭

えちごつまり

越後妻有 2022

2022.4.29.FRI—11.13.SUN

会場：越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）760km²
主催：大地の芸術祭実行委員会 共催：NPO法人越後妻有里山協働機構
Venue: Echigo-Tsumari Region, 760 square kilometers (Tokamachi City + Tsunan Town, Niigata Prefecture)
Organizer: Echigo-Tsumari Art Triennale Executive Committee
Co-organizer: NPO Echigo-Tsumari Satoyama Collaborative Organization
www.echigo-tsumari.jp

大地の芸術祭は旅とアートの祭りです

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

開催地 : 越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）760km²
主催 : 大地の芸術祭実行委員会
共催 : NPO法人 越後妻有里山協働機構

✓世界最大級の国際芸術祭

✓過疎高齢化の進む日本有数の豪雪地、新潟県の越後妻有地域(=大地の芸術祭の里)が舞台。

✓トリエンナーレは2000年から3年に1度開催。

✓前回2018年は約54万人の来場者数を記録。

前回(2018年)のデータ

- 作品数 : **379点**(うち恒久設置作品210点)
- 作品展示集落数(公園など公共の場合含む) : **102集落**
- 参加アーティスト : 44の国と地域 **363組**
- 来場者数 : **548,380人**
- こへび隊登録人数 : **2,742人**
- 地元サポーター登録人数 : **301人**

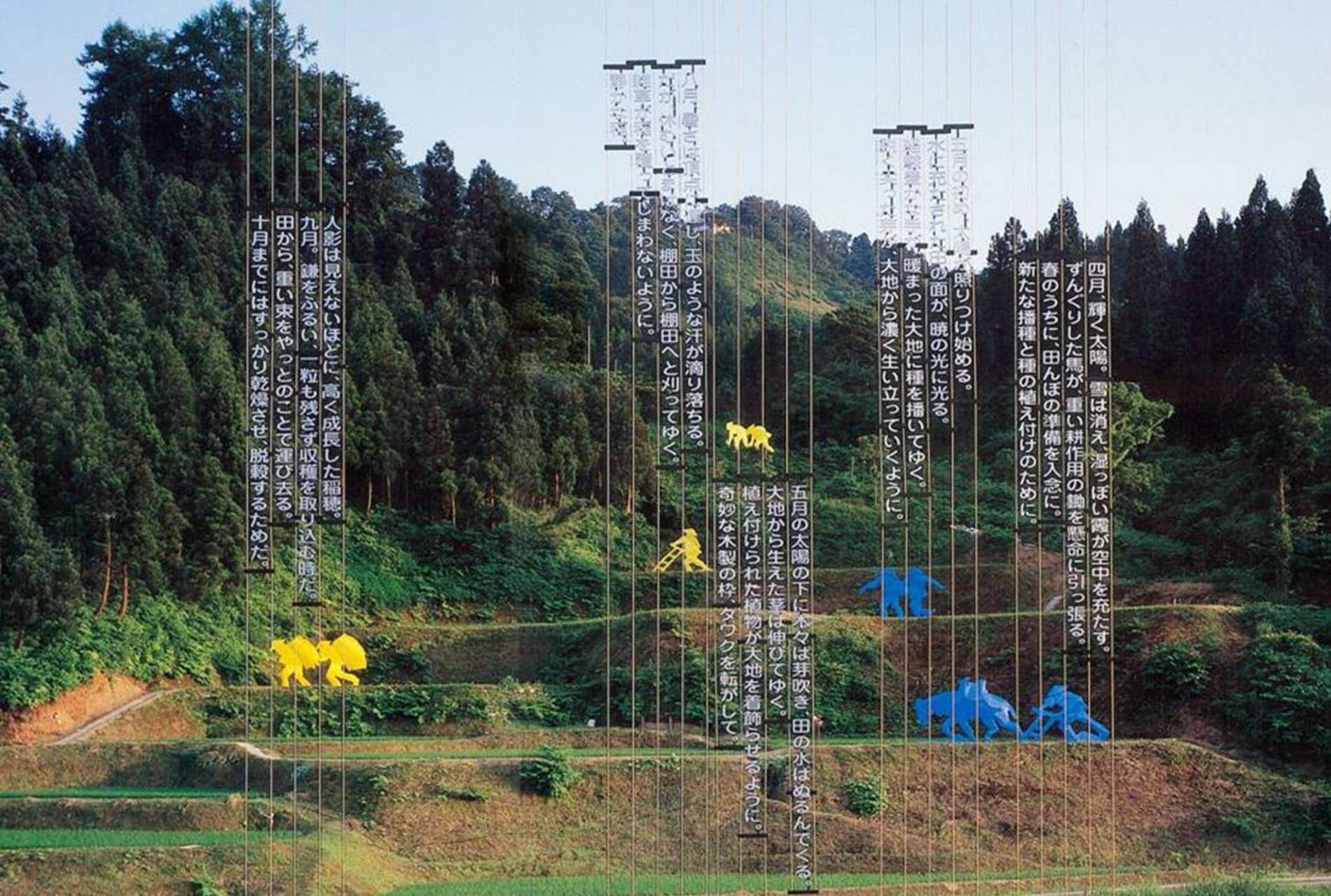
大地の
芸術祭

大地の芸術祭10の思想

1. アートを道しるべに里山をめぐる旅
2. 他者の土地にもものをつくる
3. 人間は自然に内包される
4. アートは地域を発見する
5. あるものを活かし新しい価値をつくる
6. 地域・世代・ジャンルを超えた協働
7. 公共事業のアート化
8. ユニークな拠点施設
9. 生活芸術
10. グローバル／ローカル



草間 彌生
花咲ける妻有 (2003)



イリヤ&エミリア・カバコフ
棚田（2000）



磯辺 行久
川はどこにいった (2000)

「大地の芸術祭」作品・集落・来場者の推移

	2000	2003	2006	2009	2012	2015	2018
作品数 (恒久設置数)	153	220 (67)	334 (131)	365 (149)	367 (189)	378 (196)	380
展示集落数	28	38	67	92	102	110	102
参加国 参加アーティスト	32 148	23 157	40 225	40 350	44 310	35 363	44 332
来場者数	162,800	205,100	348,997	375,311	488,848	510,690	548,380
こへび隊 登録人数	800	711	930	350	1246	2270	3010
参考	2000		2005		2010		2015
十日町市人口	65,033		62,058		58,911		54,917
津南町人口	12,389		11,719		10,881		10,029

集落単位に焦点を当てた展示



~2005.3.31



2005.4.1~



サポーター:こへび隊

- 2000年「大地の芸術祭」の誕生と同時に発足したサポーターチーム。
- 「自分たちが楽しいから」という理由で参加していることから、時間やお金に余裕がある人がする活動というイメージのあった「ボランティア」という言葉に代わる表現が検討され、その結果生まれた名称が「こへび隊」。
- 私たちの学校／学びの場であるという意識



「大地の芸術祭」のこれまで

西暦	芸術祭年表	社会のできごと
1994	◎十日町地域がニューにいがた里創プランの地域指定を受ける	
1995		○阪神淡路大震災 ○地下鉄サリン事件
1996	◎越後妻有アートネックレス整備構想を樹立 ◎十日町地域広域事務組合に企画振興課を設置	○薬害 HIV問題
1997		○消費税5%に引き上げ
1998	◎第1回「ステキ発見」住民ワークショップ(以後5回開催) ◎大地の芸術祭実施計画、ステージ基本計画の両計画を策定 ◎大地の芸術祭実行委員会設立、北川フラムが総合ディレクターとなる ◎「花の道」ワークショップを開催	○長野冬季オリンピック開幕 ○コソボ紛争 ○欧州単一通貨「ユーロ」への統合が決定
1999	◎「ステキ発見」審査会、コンテスト結果発表(クロス10十日町、新潟) 審査員：伊島薫、大岡信、中塚大輔、真野響子、阿部真理子、佐野良吉 ◎NICAFで大地の芸術祭を紹介 ◎サポーター組織こへび隊結成	○茨城県東海村で臨界事故
2000	◎作品公募公開審査「スター誕生」(ヒルサイドプラザ、東京、代官山) ◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2000	

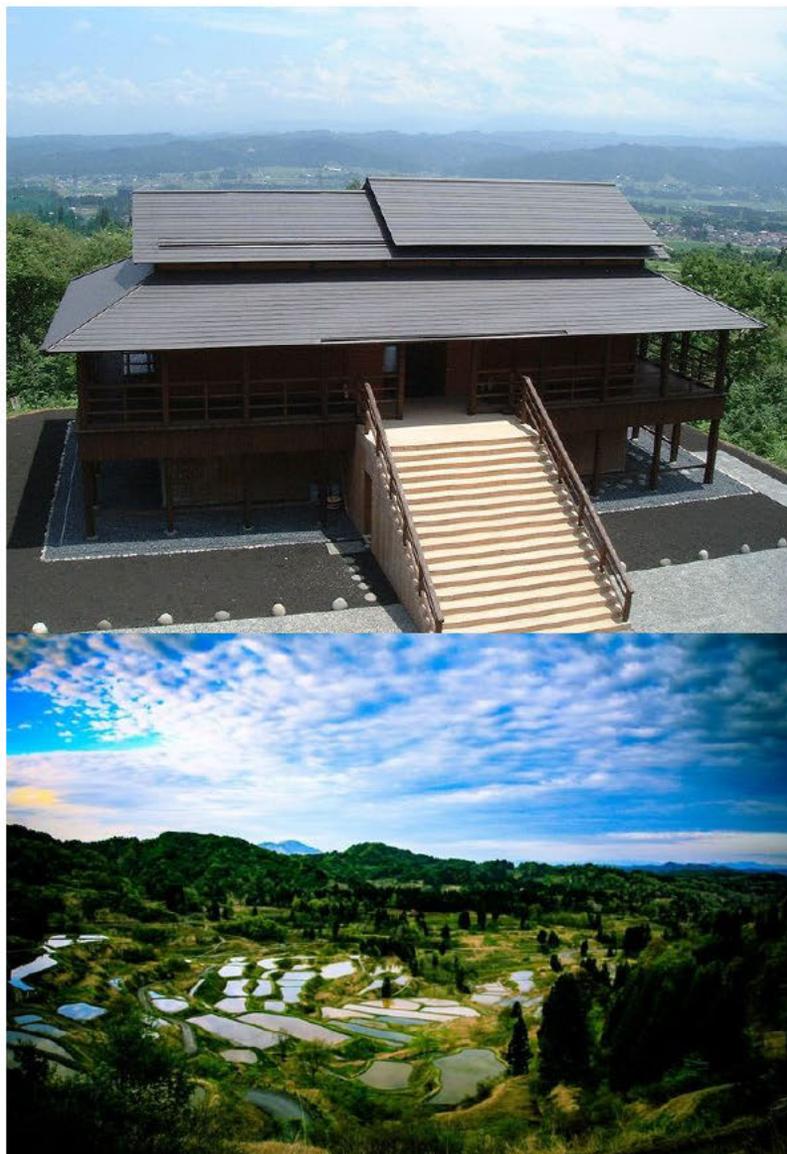
西暦	芸術祭年表	社会のできごと
2001	◎大地の芸術祭が第5回ふるさとイベント大賞を受賞 ◎大地の芸術祭プレイベント2001、ジャクリーヌ・マティス「スカイワーク」 ◎第2回大地の芸術祭アイデアコンペティション応募作品：525点 審査員：ハウ・ハンルウ、ローザ・マルティネス、トム・フィンケルパール、中原佑介(以上アドバイザー)、原広司、川俣正、中村錦平、杉井明美	○9.11同時多発テロ
2002	◎こへび隊の勉強会「こへびアカデミア」(6回開催) ◎大地の芸術祭プレイベント2002、中川幸夫・大野一雄「天空散華“花狂”」を開催 ◎短編ビデオフェスティバル公募開始 ◎「越後松之山 里山学会」スタート(以降6回開催) 講師：鷲谷いづみ(東京大学大学院教授)、服部重昭(名古屋大学大学院生命農学研究科教授)、日鷹一雅(愛媛大学農学部助教授)、中村浩二(金沢大学理学部生物学科教授)、湯本貴和(総合地球環境学研究所教授)、紙谷智彦(新潟大学農学部教授)	○小泉首相、初の訪朝で「日朝平壤宣言」に調印
2003	◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2003 3つの大きな拠点(キナーレ・農舞台・キョロロ)が創立 ◎田んぼオーナー制度を立ち上げる	○イラク戦争開始 ○個人情報保護法成立 ○アメリカでBSEの牛発見、米国産牛肉の輸入を停止
2004	◎越後妻有2004夏10 days ◎おおへび福武委員会結成 ◎「大地の手伝い」(新潟中越地震復興支援活動)開始	○陸上自衛隊にイラク派遣命令 ○裁判員法成立 ○新潟県中越地震
2005	◎越後妻有2005夏10 days ◎空家廃校プロジェクト始動、空家オーナー制度スタート	○愛知万博 ○JR福知山線で脱線事故 ○平成の大合併

「大地の芸術祭」のこれまで

西暦	芸術祭年表	社会のできごと
2006	<ul style="list-style-type: none"> ◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2006 ◎大地の芸術祭への大学のかかわりがより深まる 2006年に日本大学芸術学部彫刻コース有志の「脱皮する家」、2009年に始まる京都精華大学の「枯木又プロジェクト」、東京藝術大学の「克雷ダイナモ・アートプロジェクト」、2015年には東京藝術大学とフランスのエコール・デ・ボザール国際共同プロジェクトも開催された ◎ツアーガイド付き作品鑑賞バスツアーがスタート ◎妻有ファンクラブ発足 ◎「越後妻有のアートをみちしるべに里山を体験する旅」が第2回JTB交流文化賞受賞 	
2007	<ul style="list-style-type: none"> ◎越後妻有大地の祭り2007夏 本番年以外の年の夏のイベントが30日間に。以降毎年夏のイベントの開催が定番化 	<ul style="list-style-type: none"> ○郵政民営化 ○新潟県中越沖地震
2008	<ul style="list-style-type: none"> ◎越後妻有 2008 冬 1月集落の小正月、2月「越後妻有雪アートプロジェクト」、3月「うぶすなの家ひなまつり」など冬のイベントが始まる ◎NPO法人越後妻有里山協働機構が発足 ◎越後妻有2008春、越後妻有2008秋のプログラムを開始、通年化の動きが始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○リーマンショック
2009	<ul style="list-style-type: none"> ◎「越後妻有サポートサイト」が立ち上がる ◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2009 	<ul style="list-style-type: none"> ○民主党に政権交代
2010	<ul style="list-style-type: none"> ◎北川フラム「大地の芸術祭ディレクターズ・カット」出版 ◎瀬戸内国際芸術祭はじまる 	<ul style="list-style-type: none"> ○韓国併合100年
2011	<ul style="list-style-type: none"> ◎雪害で倒壊したオーストラリア・ハウスを新設するための設計プロポーザルの公募 ◎佐藤卓による公式ロゴが誕生 ◎「越後妻有の林間学校」がスタート。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災、原子力緊急事態宣言 ○TPP参加表明

西暦	芸術祭年表	社会のできごと
2012	<ul style="list-style-type: none"> ◎地元サポーターJISAPOの立ち上げ ◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2012 ◎新潟市で水と土の芸術祭とプロモーションやプログラムでの連携が行われる。 ◎「JR飯山線アートプロジェクト」がスタート 	
2013	<ul style="list-style-type: none"> ◎「ココルミネ×大地の芸術祭」スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定秘密保護法成立
2014	<ul style="list-style-type: none"> ◎オフィシャルサポーターの発足 ◎「越後妻有雪花火／Gift for Frozen Village」を初開催 ◎「中学社会公民」の教科書に掲載される 	<ul style="list-style-type: none"> ○消費税8%に引き上げ
2015	<ul style="list-style-type: none"> ◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2015 ◎新たな拠点施設として奴奈川キャンパス、清津倉庫美術館、越後妻有「上郷クローブ座」が立ち上がる ◎農業女子サッカーチームFC越後妻有の活動がスタート ◎国土交通省の手づくり郷土賞大賞を受賞 ◎「森の学校」キョロロが日本自然保護大賞を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全保障関連法成立 ○渋谷区、世田谷区が同性間パートナーシップ制度を導入
2016	<ul style="list-style-type: none"> ◎中国アーティストのレジデンス施設として中国ハウスがオープン ◎通年（年4回）の季節プログラムが定番化（2004年から主に夏・冬のみ実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ○イギリスの国民投票でEU離脱支持が過半数
2017		<ul style="list-style-type: none"> ○トランプ大統領就任
2018	<ul style="list-style-type: none"> ◎大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2018 ◎「香港ハウスプロジェクト」が始動 ◎オーストラリア・ハウスと中国ハウスに次いで3つ目の国際レジデンス施設が誕生 ◎「グッドデザイン・ベスト100」に選出され、特別賞GOOD DESIGN GOLD AWARD グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ○オウム真理教松本被告ら7名の死刑執行

越後妻有アートネックレス



越後妻有アートネックレス整備構想



ECHIGO-
TSUMARI
ART
TRIENNIAL

越後妻有アートネックレス整備構想は、当時6市町村に分けていた十日町広域行政圏を「アートでつなぐ」という意味を込めて名付けられました。この構想のもとで、次のような事業が行われました。

ヘビのシンボルマーク

ヘビ＝神聖な生き物、守り神であり、脱皮しながら大きくなっていくヘビに合併を控えた旧6市町村を重ね、「脱皮しながら力を合せて大きくなっていこう」という願いを込めて大地の芸術祭のシンボルマークとして選ばれました。

1.越後妻有8万人のステキ発見事業

地域の自然や文化がもともともっている魅力を再発見するための写真と言葉のコンテストです。住民や旅行者等からの応募総数は3,114点にもなりました。

2.花の道事業

道路や民家の庭先などに花を植えて広域行政圏をつなぐ事業です。道路整備や公園づくり（ポケットパーク事業）などを含めた総合的なインフラ整備の推進が並行して考えられました。

3.ステージ整備事業

有名なアーティストや建築家の参画により、地域の交流拠点施設を整備する事業です。整備された越後妻有交流館キナーレ、光の館、まつだい農舞台、森の学校キョロロは、現在も大地の芸術祭の拠点施設として多くの方が訪れています。

4.大地の芸術祭

越後妻有アートネックレス整備構想の成果を3年に1回発表する場として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は企画されました。アーティストと地域住民の協働により地域に内在する様々な価値を掘り起こし、その魅力を高め、世界に発信し、地域活性化につなげるというものです。大地の芸術祭は第1回展を平成12年に開催したのち、継続的に3年に1度開催されています。

越後妻有8万人のステキ発見

地域の魅力を再発見するために行われた写真と言葉のコンテスト。
(1998-99年度実施)

応募数:総数3114点

審査員:阿部真理子(イラストレーター)、安齋重男(写真家)

伊島薫(写真家)、大岡信(詩人)

佐野良吉(十日町市文化協会連合会・会長)

中塚大輔(クリエイティブ・ディレクター)、真野響子(女優)

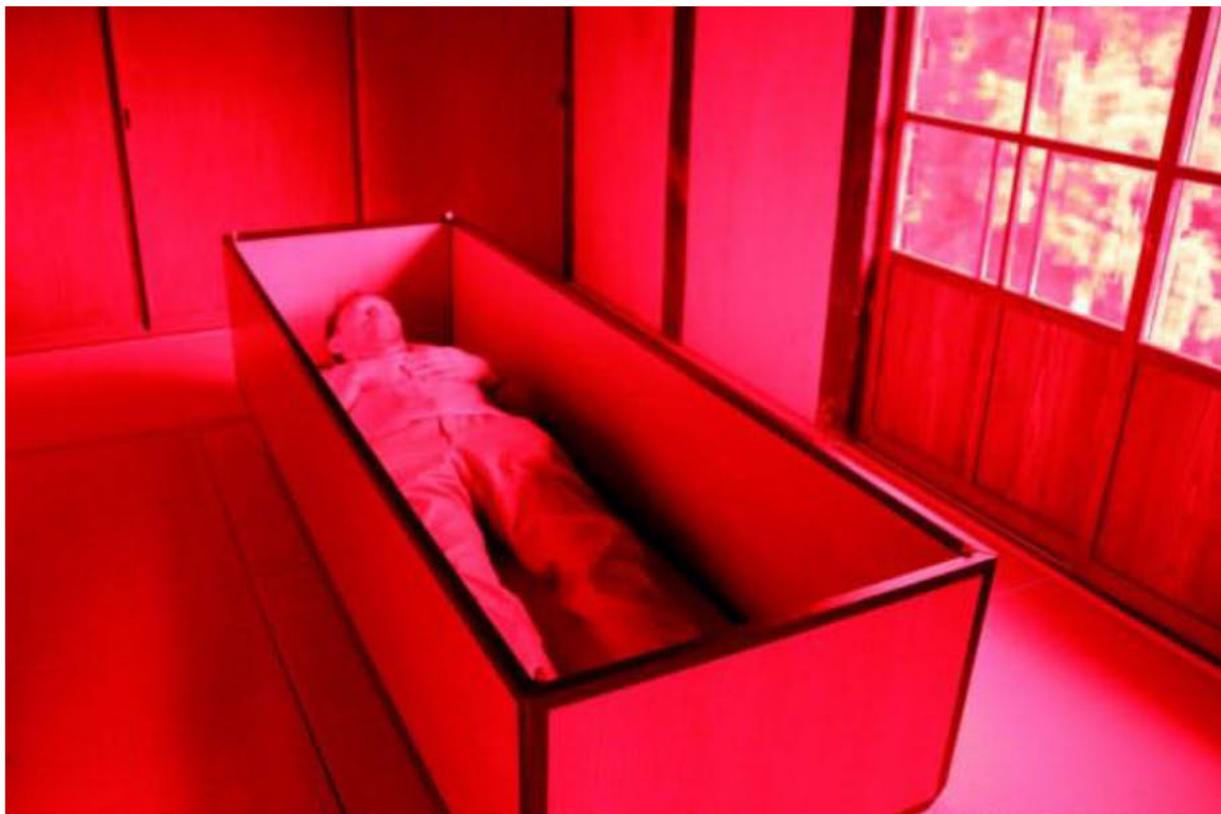


大地の芸術祭 始動へ

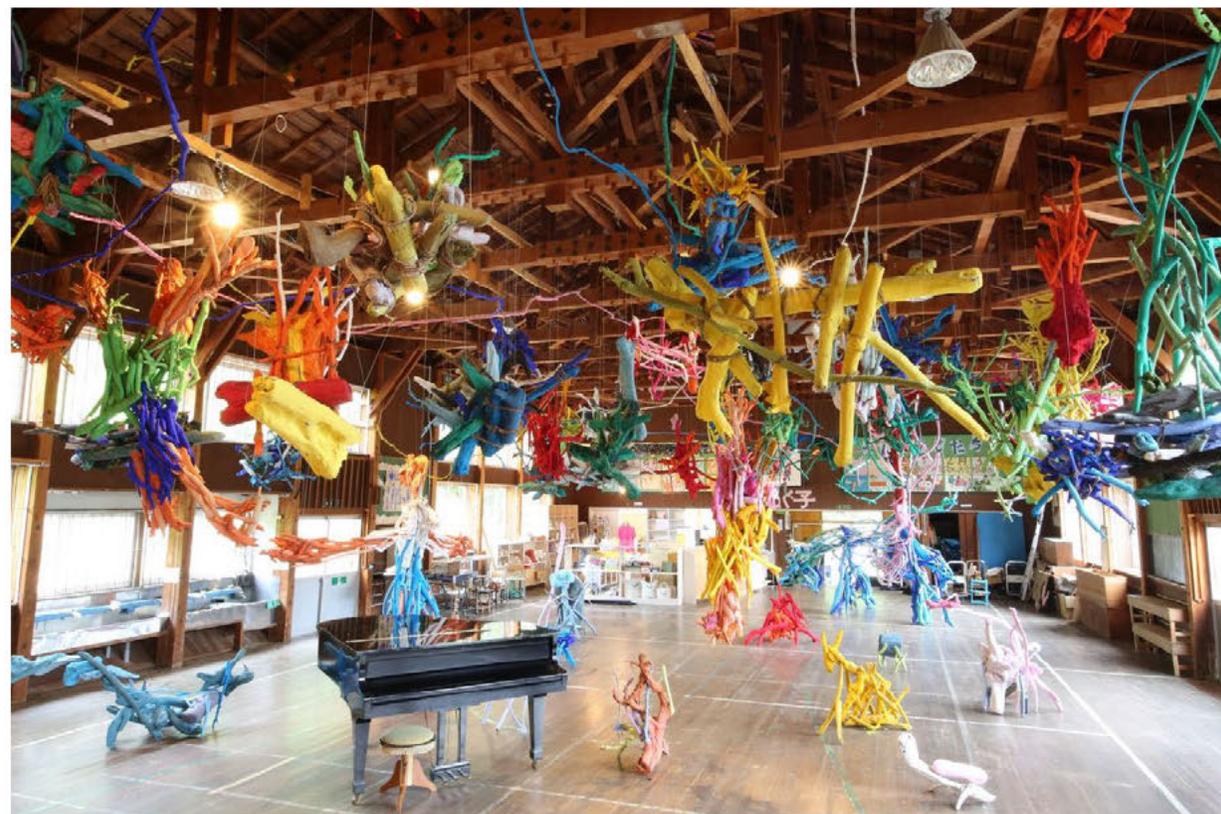
今までのパブリックアート:公園、空き地



大地の芸術祭:空家、廃校



マリーナ・アブラモヴィッチ 「夢の家」



田島征三 「絵本と木の実の美術館」

ステージ整備事業

自然・歴史・文化・産業などの地域資源



ステキ発見
地域資源の再発見

十日町指名:
原広司

十日町ステージ
越後妻有の市

川西ステージ
新田園都市づくり

松代ステージ
雪国農耕文化村

北川選定:MRVD

公募選定:手塚貴晴+手塚由比

中里ステージ
信濃川物語

松之山ステージ
森の学校

津南ステージ
縄文と遊び

花の道
6つの市町村に数多くある貴重な場をつなぐ



ステージ
様々な側面から地域の魅力を発信する交流拠点

大地の芸術祭越後妻有トリエンナーレ
地域の一体感・より豊かな地域のイメージの発信

越後妻有里山現代美術館（2003-）



地域を代表する現代美術館

まつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」(2003-)



雪国農耕文化とアートフィールドミュージアム

三省ハウス(2006-)



アーティスト・サポーター・お客さんの出会いの場&松之山の拠点

絵本と木の実の美術館 (2009-)



鉢集落の小学校を改修した空間絵本美術館

清津倉庫美術館 (2015-)



磯辺行久作品を中心とした「保管しながら展示する」美術館

上郷クローブ座(2015-)



パフォーミングアーツの拠点施設

越後妻有里山現代美術館



名称:越後妻有里山現代美術館
英語表記:MonET モネ
(Museum on ECHIGO-TSUMARI)



《エアリエル》 ニコラ・ダロ[フランス]



《Movements》 目



《Force》 名和晃平



《遠方の声》 中谷ミチコ



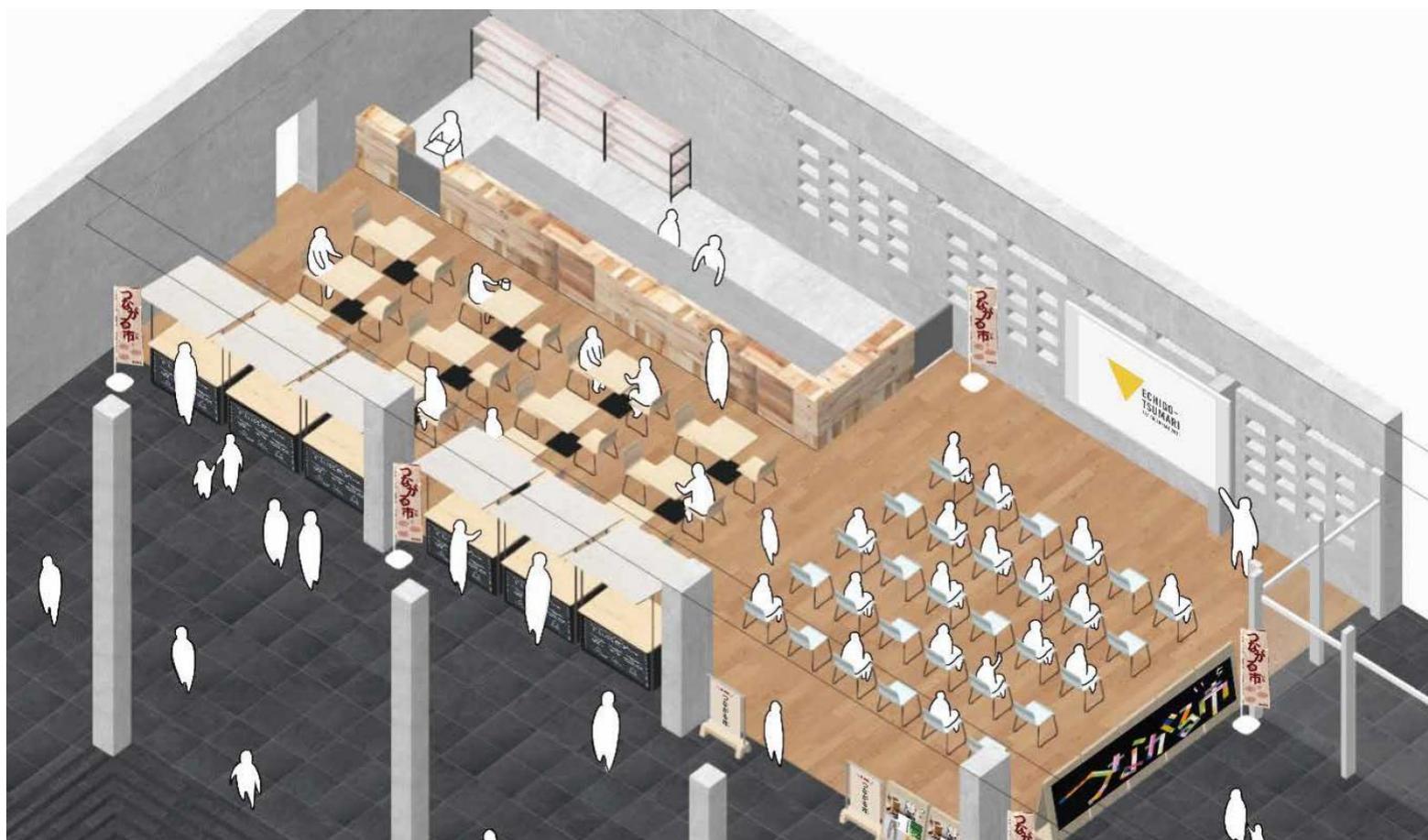
《雪上ディスカバリー》原倫太郎+原游



《天空の花畑》高橋匡太

良品計画:地域のコミュニティセンターを目指して

コミュニティスペースの展開による、コミュニティの創出



地域のローカルプレイヤーと協業し、
地域産品や無印良品の商品を使用した
イベント開催、地域交流を実施

良品計画:地域のコミュニティセンターを目指して



「カバコフの夢」プロジェクト

旧作2点

2000年《棚田》

2015年《人生のアーチ》

新作7点

屋外

《手をたずさえる塔》

《手をたずさえる船(模型)》

農舞台

《10のアルバム》

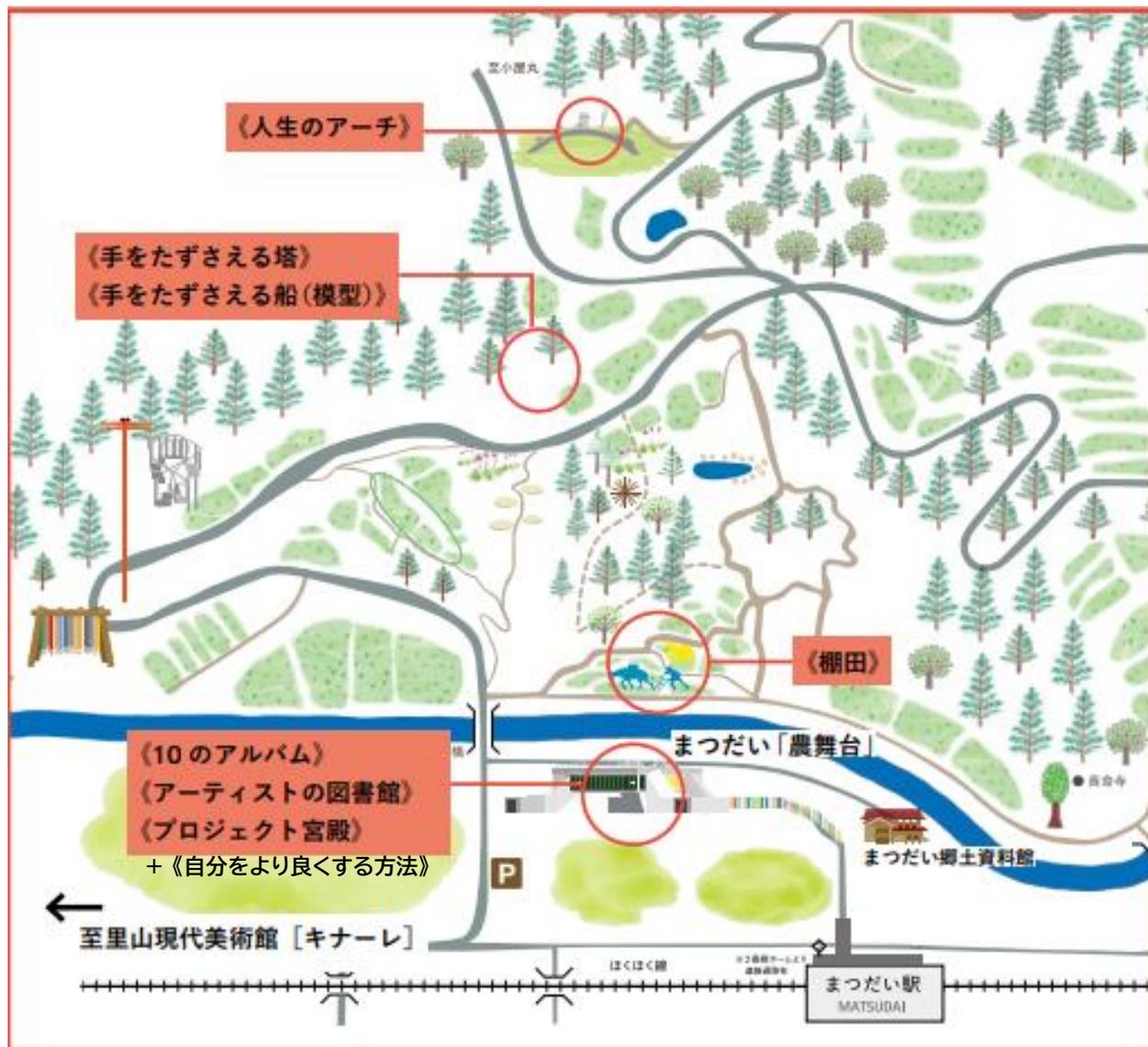
《アーティストの図書館》

《プロジェクト宮殿》

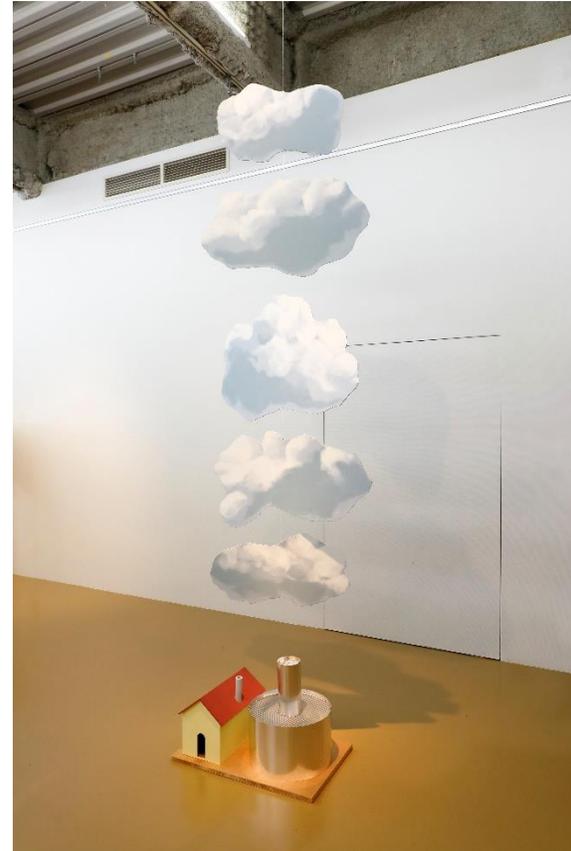
《自分をより良くする方法》

まつだい郷土資料館 -> キナーレ

《16本のロープ》



ROOM1 アーティストの図書館 & プロジェクト宮殿





ROOM2 <10のアルバムの迷宮>



ROOM3 <自分をより良くする方法>



《手をたずさえる塔》 イリヤ&エミリア・カバコフ[ロシア・アメリカ]



《手をたずさえる塔》 イリヤ&エミリア・カバコフ[ロシア・アメリカ]

北越急行ほくほく線との連携



《JIKU #013 HOKUHOKU-LINE》 パノラマティクス

瀬戸内国際芸術祭2022

会期

春: 4月14日(木) – 5月18日(水)

夏: 8月5日(金) – 9月4日(日)

秋: 9月29日(木) – 11月6日(日)

会場

直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、
沙弥島(春会期)、

本島(秋会期)、高見島(秋会期)、粟島(秋会期)、
伊吹島(秋会期)、

高松港周辺、宇野港周辺



アートと島を巡る瀬戸内海の四季
Seto Inland Sea Art and Island Journey
Through the Seasons

瀬戸内国際芸術祭2022 Setouchi Triennale 2022

春会期: 4月14日|木| – 5月18日|水| 夏会期: 8月5日|金| – 9月4日|日| 秋会期: 9月29日|木| – 11月6日|日|
Spring: Apr 14th|Tue| – May 18th|Wed| Summer: Aug 5th|Fri| – Sep 4th|Sun| Autumn: Sep 29th|Tue| – Nov 6th|Sun|

会場 | 瀬戸内海の12の島 + 高松・宇野 | 直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島 (春会期)、本島 (秋会期)、高見島 (秋会期)、
栗島 (秋会期)、伊吹島 (秋会期)、高松港・宇野港周辺

Area | 12 Islands of the Seto Inland Sea + Takamatsu, Uno | Naoshima Island, Teshima Island, Megijima Island,
Ogijima Island, Shodoshima Island, Oshima Island, Inujima Island, Shamijima Island, Honjima Island,
Takamatsu Port, Uno Port

主催 | 瀬戸内国際芸術祭実行委員会 共同いそむ会 | 瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局
Tel: 0876-813-8833 (日本語) Tel: 0876-813-2244 (英語) <http://setouchi-artfest.jp>



会場: 12の島と2つの港



海の復権

1. アート・建築

2. 民俗・生活

－地域と時間と住民(島のお年寄たちの元気)

3. 交流

－日本全国・世界各地の人々に関わる

4. 世界の叡智が集う

5. 次代を担う若者や
子どもたちへ

6. 縁をつくる

瀬戸内地域が抱えていた諸問題

島々・土地の力の減退

過疎高齢化

産業の衰退

海からの隔絶

隔離としての島

(銅精錬所、産業廃棄物、ハンセン病)

環境破壊・汚染

(海砂利、赤潮、海ゴミなど)

来場者数

芸術祭2019の来場者数（107日間）

会場名	春会期	夏会期	秋会期	計
直島	96,699	96,199	110,880	303,778
豊島	39,780	45,842	57,751	143,373
女木島	25,698	23,880	30,429	80,007
男木島	22,967	21,908	26,934	71,809
小豆島	56,766	59,913	69,419	186,098
大島	3,040	4,322	5,515	12,877
犬島	19,132	17,074	22,501	58,707
沙弥島	72,459	-	-	72,459
本島	-	-	27,469	27,469
高見島	-	-	25,198	25,198
栗島	-	-	29,561	29,561
伊吹島	-	-	18,622	18,622
高松港周辺	38,964	32,475	29,897	101,336
宇野港周辺	11,404	17,306	18,480	47,190
合計	386,909	318,919	472,656	1,178,484

これまでの活動

第1回

東の7島+高松で初の開催
来場者: 938,246 18の国・地域から75組が参加



ボランティアサポーターこえび隊の活躍



主な活動

- 《アート作品をつくる・まもる》
- 《アート作品をの受付・案内する》
- 《レストラン、イベント、催事を手伝う》
- 《島をガイドする》

これまでの活動

第2回

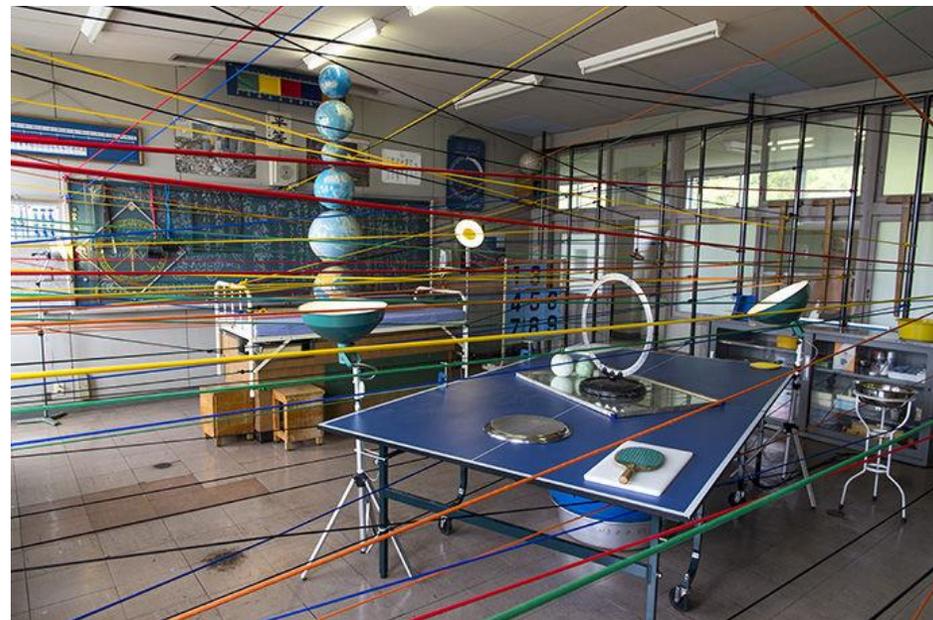
中西讃の5島が新たに参加
春、秋を含めた3会期に
来場者: 1,070,368 26の国・地域から200組が参加



バングラデシュ・プロジェクト



沙弥島での島スープ



男木島の小・中学校でのプロジェクト

これまでの活動

第3回

アジアとの交流の深化

来場者: 1,040,050 34の国・地域から226組が参加



「盆栽」など伝統文化



食のフラム塾

タイファクトリーマーケット



瀬戸内アジア村
Asia
Performing
Arts Market in
Setouchi
2016

©kawanori-photo

これまでの活動

第4回

来場者: 1,178,484

32の国・地域から230組が参加

『Valuable Cargo』公演



特産品に焦点を当てたプロジェクト



第2回瀬戸内アジアフォーラム

島の変化

男木島

- ・男木島 男木小・中学校再開（2014年4月7日）
- ・7年前の人口は180人だったが、
現在25世帯が移住し、常に3～4世帯が待機している



芸術祭で校舎を活用したWS



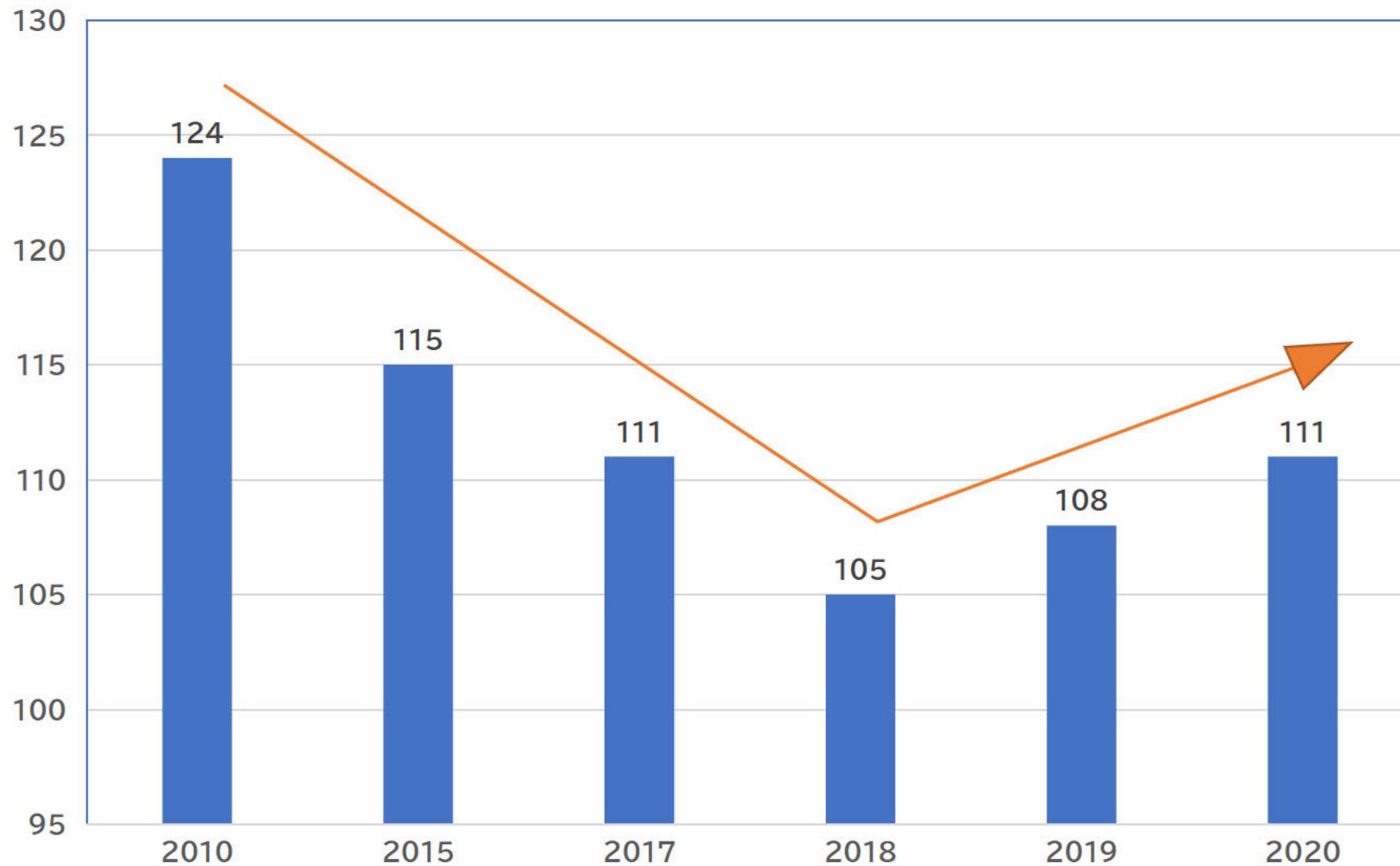
小中学校の再開



私設図書館の活動

島の変化

男木島の世帯数



高松市公式HP
【統計】高松市統計書「高松市の人口」より作成

島の変化

大島

- ・こえび隊による島内ガイド、カフェの運営
- ・大島の在り方を考える会
- ・社会交流会館のオープン
- ・高松⇄大島間の一般定期航路化
→ハンセン病元患者のご家族への補償



来島者に向けての活動



検討会



入所者に向けての活動



社会交流会館(歴史ジオラマ)

島の変化

豊島

- ・豊島美術館
- ・島キッチン
- ・お誕生会、お惣菜の日
- ・棚田の収穫祭
- ・来島者、移住者の増加



地域に根差した美術館



食の提供



島民との交流

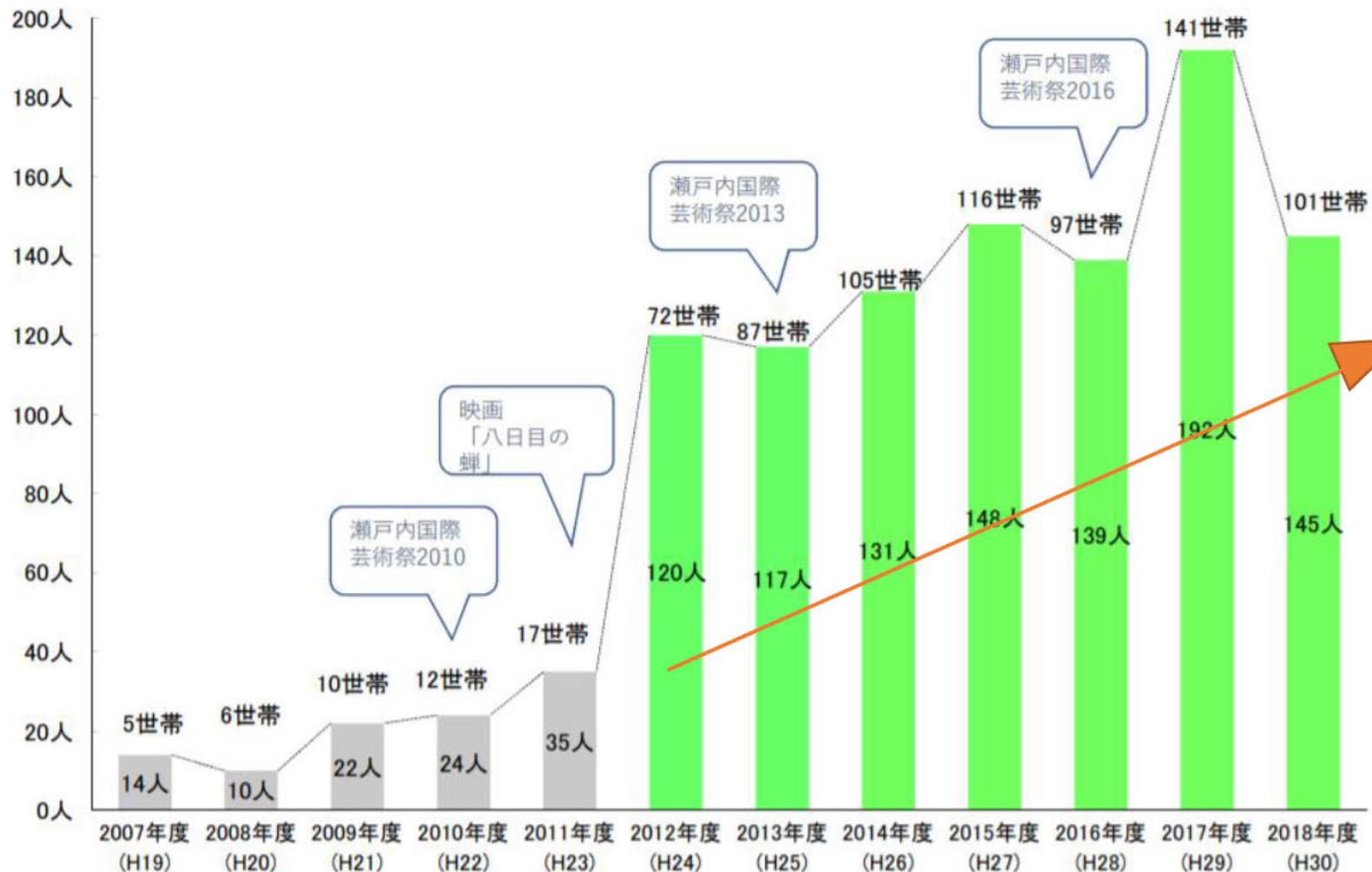


新聞配達・お惣菜の日

島の変化

小豆島

小豆島町人口の現状分析【IJターン者数の推移】



「第2期小豆島町の人口ビジョン」より抜粋

島の変化

小豆島

■土庄町 県内外別にみた人口移動の最近の状況
【転入数】（人）

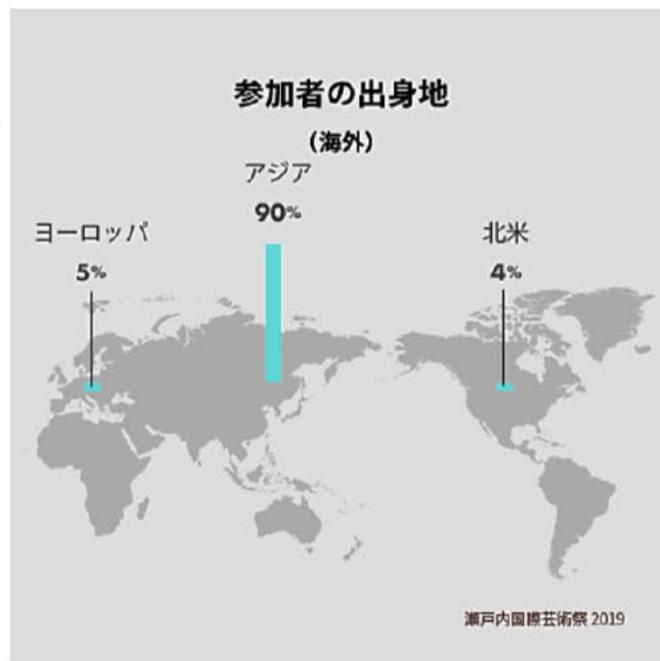


・近年、県外からの転入数が増加している

サポーターの重要性



瀬戸内国際
芸術祭 こえび隊



のべ参加人数

2010年～2019年

約 **40,000** 人

年間参加人数

(会期中・会期外)

約 **1,200** 人

芸術祭会期中

約 **300** 人

芸術祭会期外



参加人数 (国内・海外比較)

海外

18%



瀬戸内国際芸術祭 2019

サポーター実績

【瀬戸内2019】

▶こえび隊参加人数 **のべ約8000人**

▶企業・団体サポーター **約70団体 のべ約1500人**

▶寮宿泊者数 **のべ約4000人** (うち1/2 海外ボランティア)

中国地域(上海・台湾・香港・その他中国本土から多数)、アメリカ、カナダ、イタリア、メキシコ、トルコ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、スペイン、フランス、ドイツ、デンマーク、マラウイ、韓国、ロシア、リトアニアからの参加者あり

瀬戸内国際芸術祭の成果

ニューヨーク・タイムズ誌
「2019年に行くべき52カ所」
No.7 「瀬戸内の島々」



ナショナル・ジオグラフィックトラベラー(UK版)
「THE COOL LIST 2019」
Rank.1 「Setouchi」



房総里山芸術祭
いちはらアートミックス2020+
コンセプト: 晴れたら市原、行こう
会場: 千葉県市原市

房総里山芸術祭

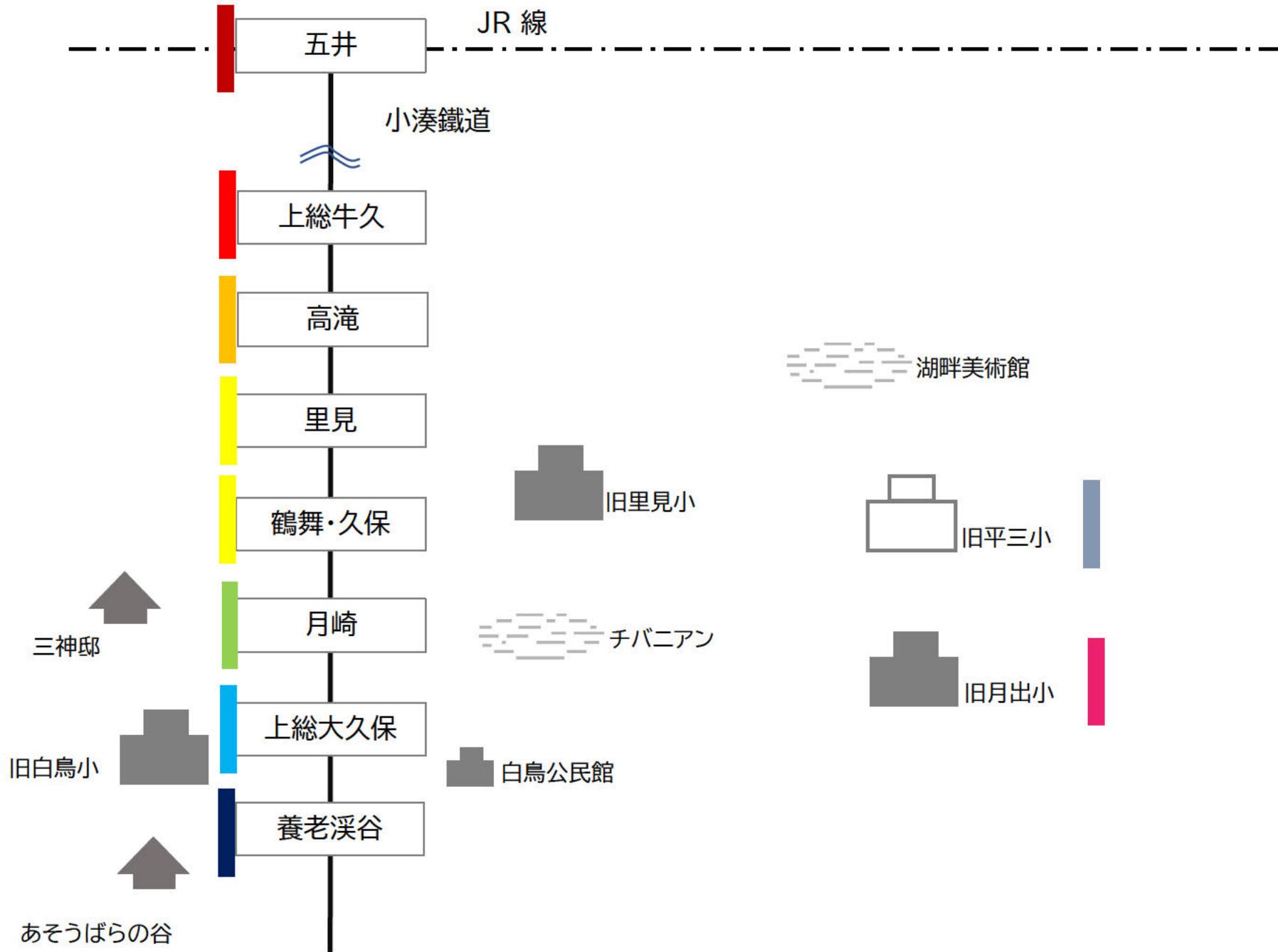
ICHIHARA ART×MIX 2020+

晴れたら市原、行こう。

房総の里山から世界を覗く — 2021.11.19(fri) - 12.26(sun)



Photo: ISHIZUKA Gentero



五井駅
(機関区含む)



上総村上駅



海士有木駅



上総三又駅



上総山田駅



光風台駅



馬立駅



上総牛久駅



上総川間駅



上総鶴舞駅



上総久保駅



高滝駅



里見駅



飯給駅



月崎駅



上総大久保駅



養老溪谷駅



「小湊鉄道五井機関区から 養老溪谷を巡るアートの旅」

来場者数

芸術祭2014の来場者数（52日間）

会場名	計
IAAES（旧里見小学校）	13,382
市原湖畔美術館	12,898
いちはら人生劇場（旧白鳥小学校）	7,215
アートハウスあそうばらの谷	6,758
内田未来楽校（旧内田小学校）	6,299
月出工舎（旧月出小学校）	5,223
森ラジオステーション（木村崇人）	3,263
湖の飛行機（KOSUGE1-16）	3,005
いちはら市民の森（岩田草平&プロマイノリティ）	2,788
牛久商店街倉庫（松尾高弘）	2,723
レジャーシート（長谷川）	2,552
里山芸術劇場（白鳥公民館）	1,163
山覚俵家	3,917
山登里食堂	8,250
指輪ホテル	1,822
おにぎりのための運動会	989
いちはらARTDOOR	452
その他（ワークショップ・イベント）	4,326
合計	87,025

今後の展開——地域の拠点づくり

牛久エリア

里見エリア

月出エリア

平三エリア

白鳥エリア

奥能登国際芸術祭

珠洲



SUZU 2020+
OKU-NOTO TRIENNALE

奥能登国際芸術祭2020+

会期:2021年9月4日(土)–10月24日(日)

9月12日まで: スズ・シアター・ミュージアム、屋外作品他、一部作品公開
9月13日以降: 全作品公開予定

珠洲の10エリア



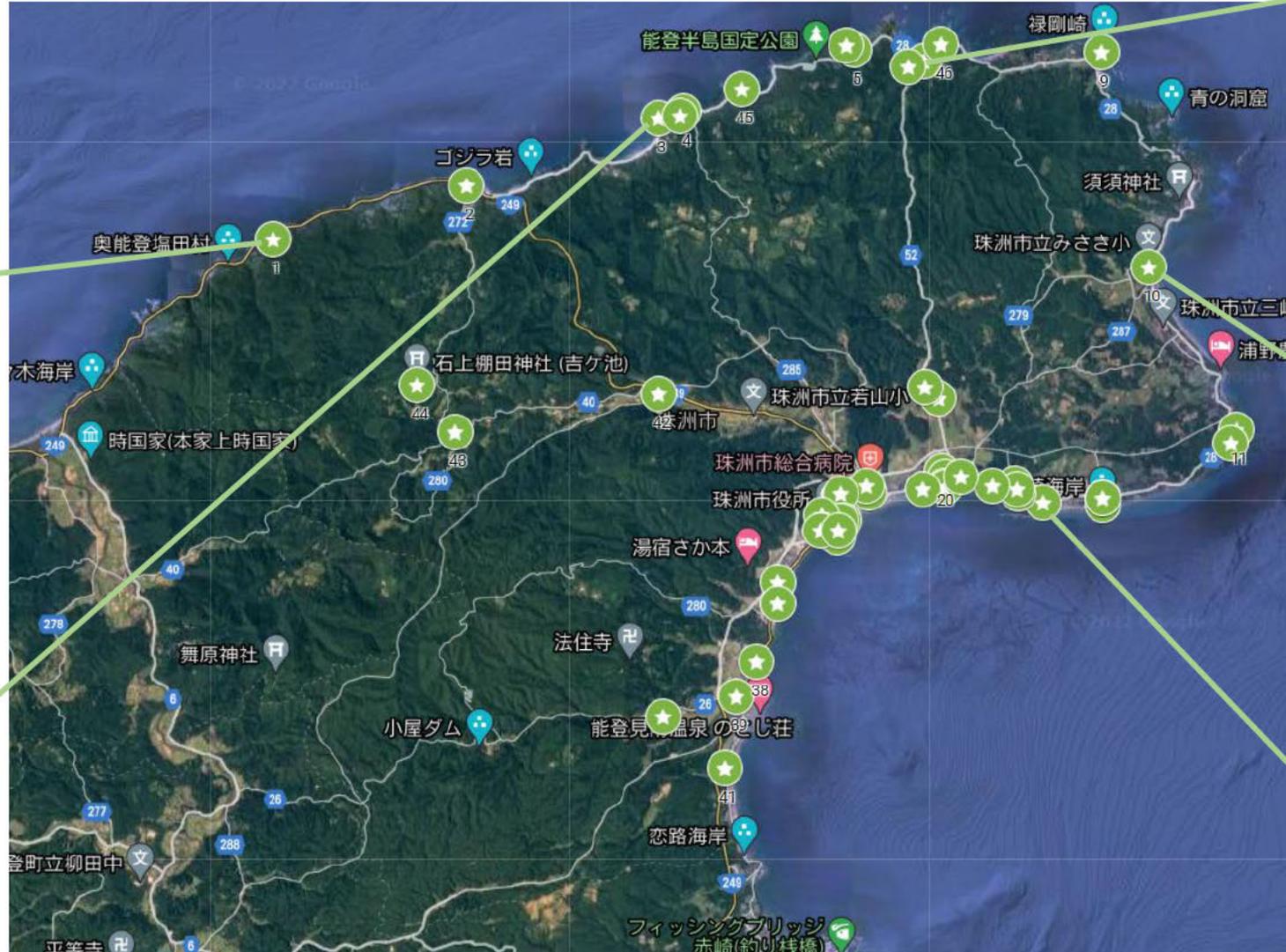
作品マップ



旧清水保育所 - 大谷エリア
(塩田千春)



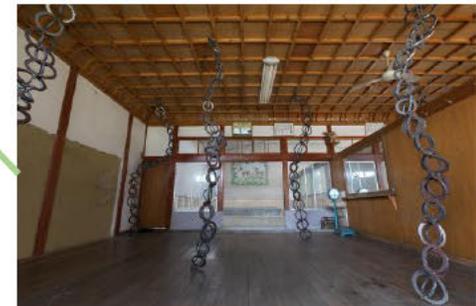
鰐崎海岸 - 大谷エリア
(キム・スージャ)



旧日置公民館 - 日置エリア
(さわひらき)



旧粟津保育所 - 三崎エリア
(カールステン・ニコライ)



旧高砂湯 - 蛸島エリア
(青木野枝)

来場者数

芸術祭2017の来場者数（50日間）

区分	計
作品鑑賞者	68,665
イベント入場者	2,595
合計	71,260

イベント入場者数

イベント名	計
ひびのこづえ×スズズカ	1,827
「寿受狂言の会」	228
さいはての「キャバレー準備中」	209
鬼太鼓座	331
合計	2,595



スズ・シアター・ミュージアム



家仕舞



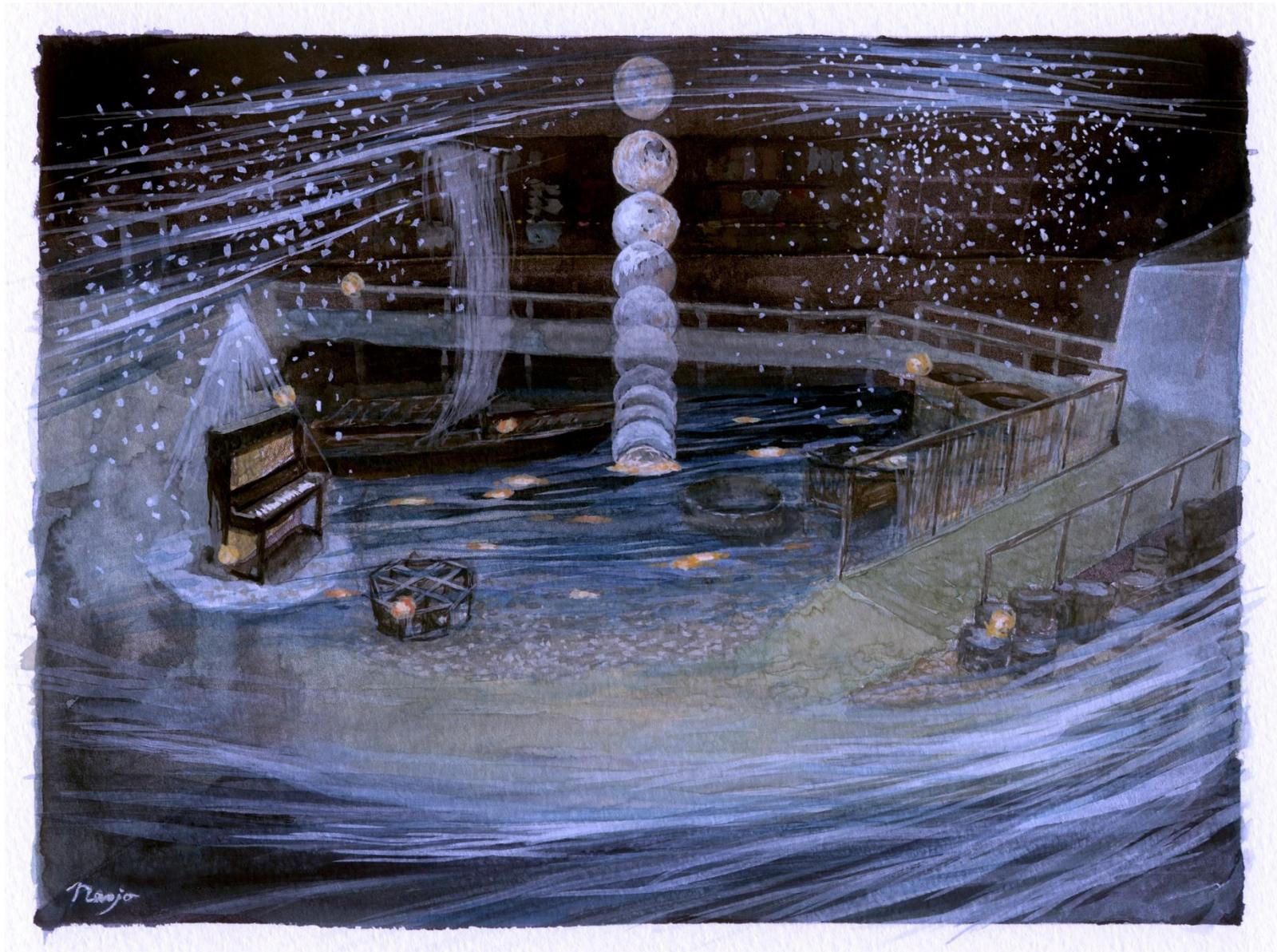
大蔵ざらえ

文化財の
保存・研究・維持



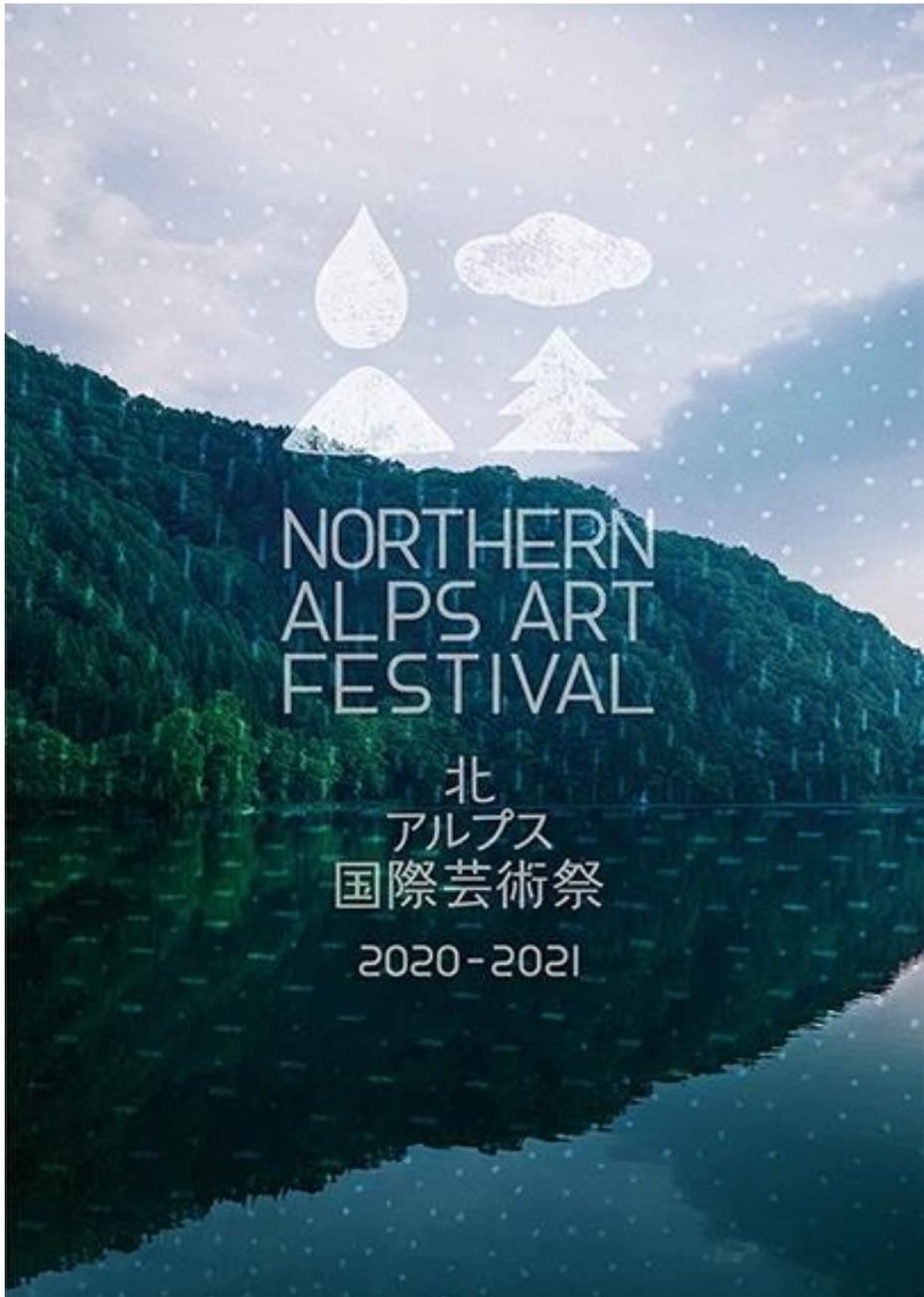
スズ・シアター・
ミュージアム





スズ・シアター・ミュージアム 《余光の海》 《光の方舟》 南条嘉毅 [日本]





北アルプス国際芸術祭2020-2021

アート会期:10月2日(土)~11月21日(日)

パフォーマンス会期:8月21日(土)~10月3日(日)
(一部のパフォーマンス作品は延期が難しいため中止)

エリア展開

□源流エリア

展開候補: 温泉郷、常盤地区、国営公園

□仁科三湖エリア

展開候補: 木崎湖、中綱湖、青木湖

□市街地エリア

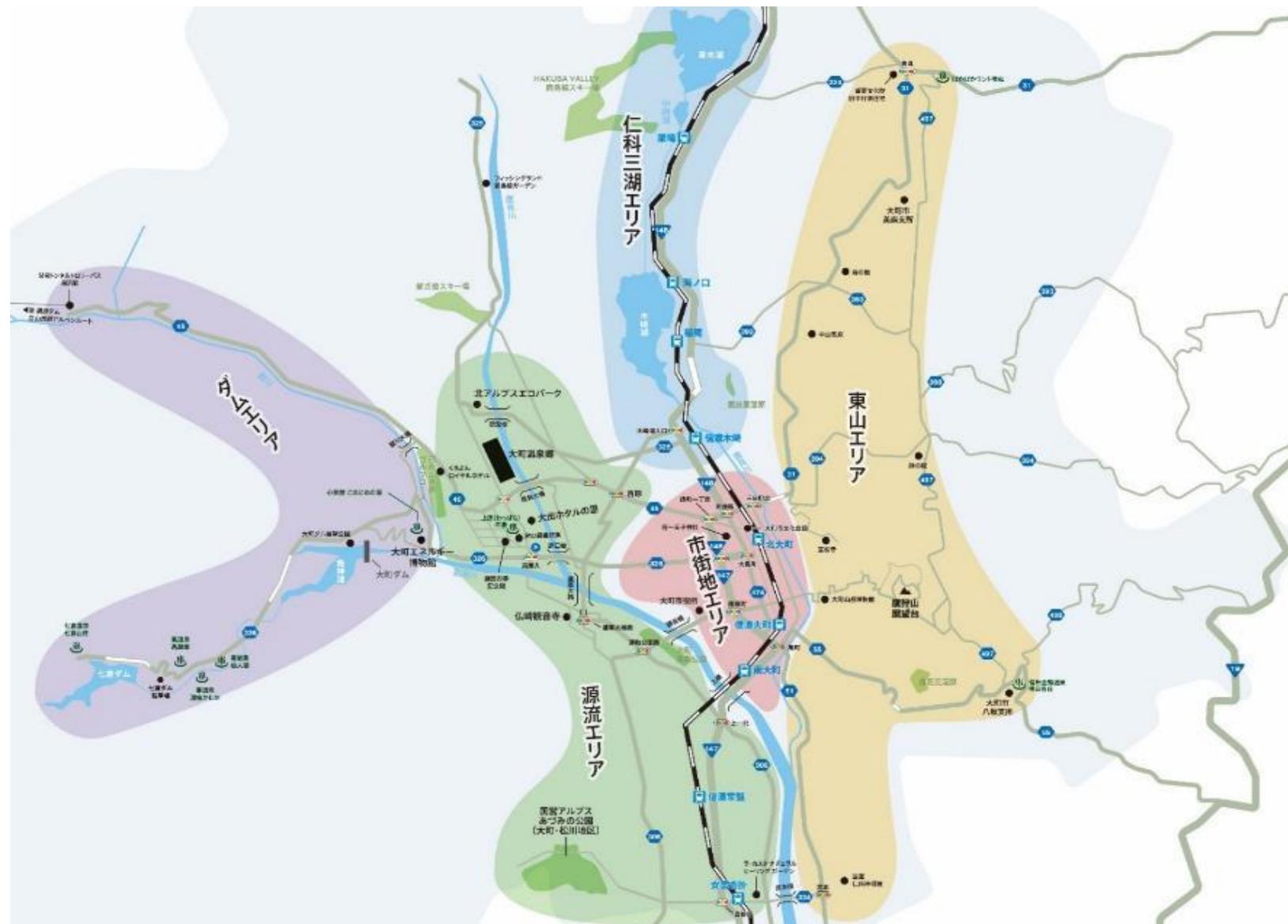
展開候補: 信濃大町駅前、市街地

□東山エリア

展開候補: 八坂地区、美麻地区、杜地区

□ダムエリア

展開候補: 大町ダム、七倉ダム、黒部ダム



来場者数

芸術祭2017の来場者数（57日間）

区分	来場者数
パスポート	25,420
個別鑑賞券	4,034
再入場券	2,606
イベント参加者	22,335
合計	54,395

コンセプト

「水・木・土・空」
～土地は気配であり、透明度であり、重さなのだ～



「水」—源流
全身の五感を揺らす、北アルプスの山々からほとばしる圧倒的な水の奔流。

「木」—樹木
日本列島を東西に分断するフォッサマグナの西の縁に位置し、信州と海を結ぶ「塩の道」が走り、東西の地質や植生が出会う、豊かな森。

「土」—地殻
これらの地盤に、季節風に運ばれた寒流と暖流の水蒸気が北アルプスにぶつかり、振り落ちる水と森によってつくられた豊かな土。

「空」—蒼穹
そして、信濃の人々が一生仰ぎみる、高い、青い空。

「水」をテーマにした作品

《アルプスの玻璃の箱舟》 杉原信幸[日本]



撮影：本郷毅史

「木」をテーマにした作品

《バンブーウェーブ》ニコライ・ポリスキー



「土」をテーマにした作品

《土の泉》浅井裕介[日本]

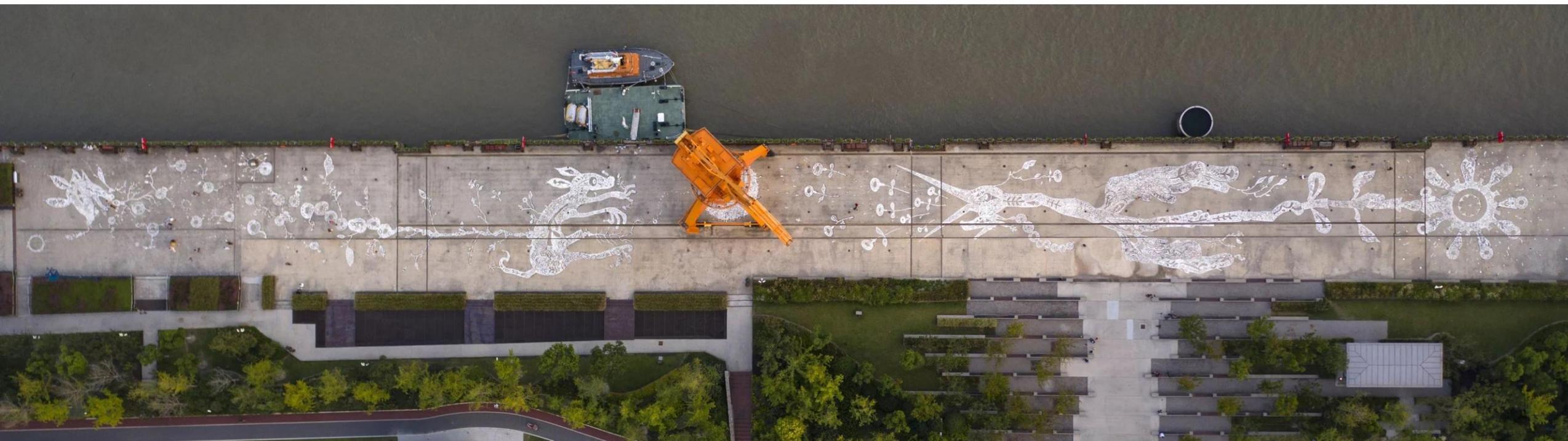


「空」をテーマにした作品

《信濃大町実景舎》目[日本]



上海都市空間藝術季2019
中国·上海

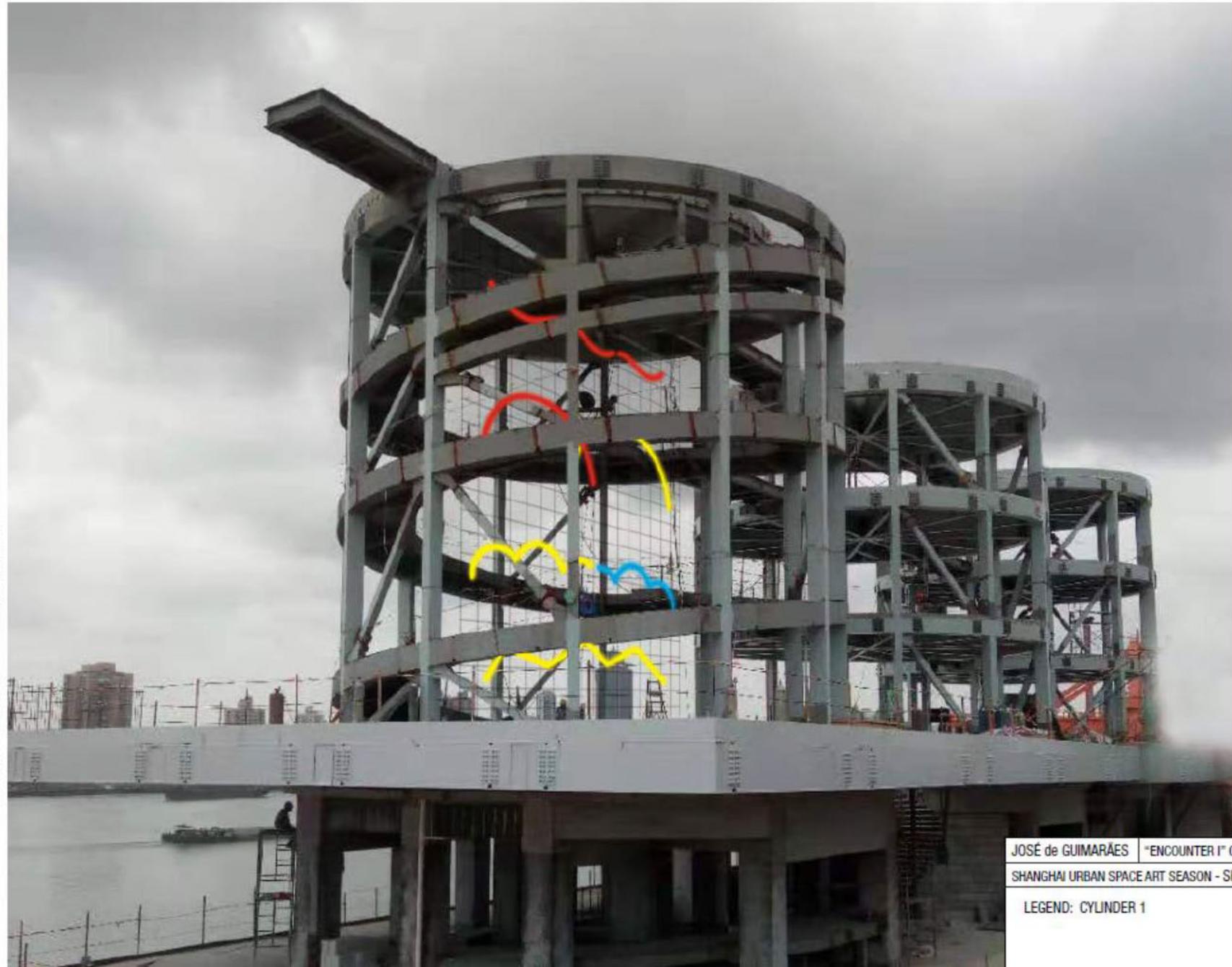


淺井裕介

CYLINDERS - SIMULATION



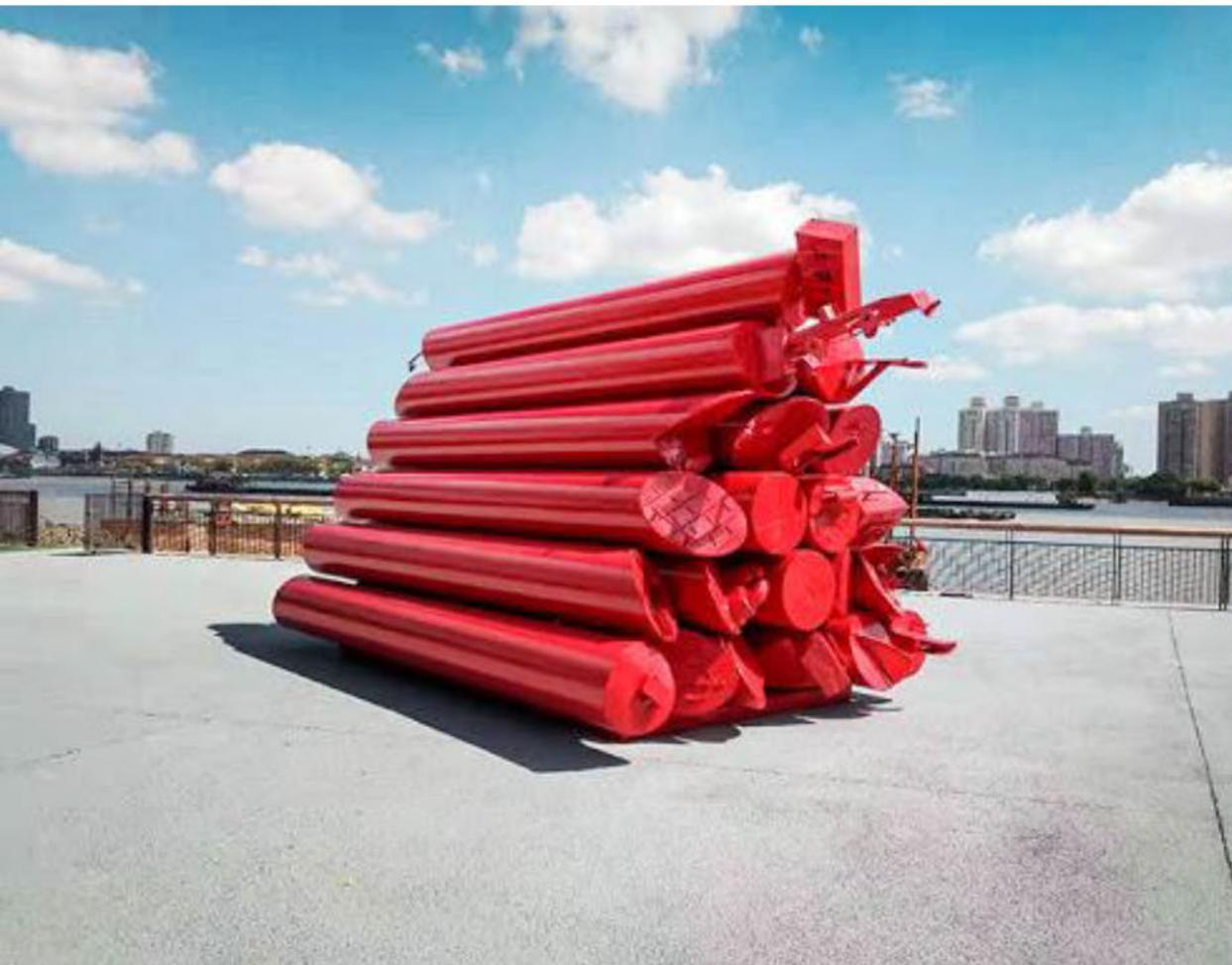
ジョゼ・ド・ギマランイス



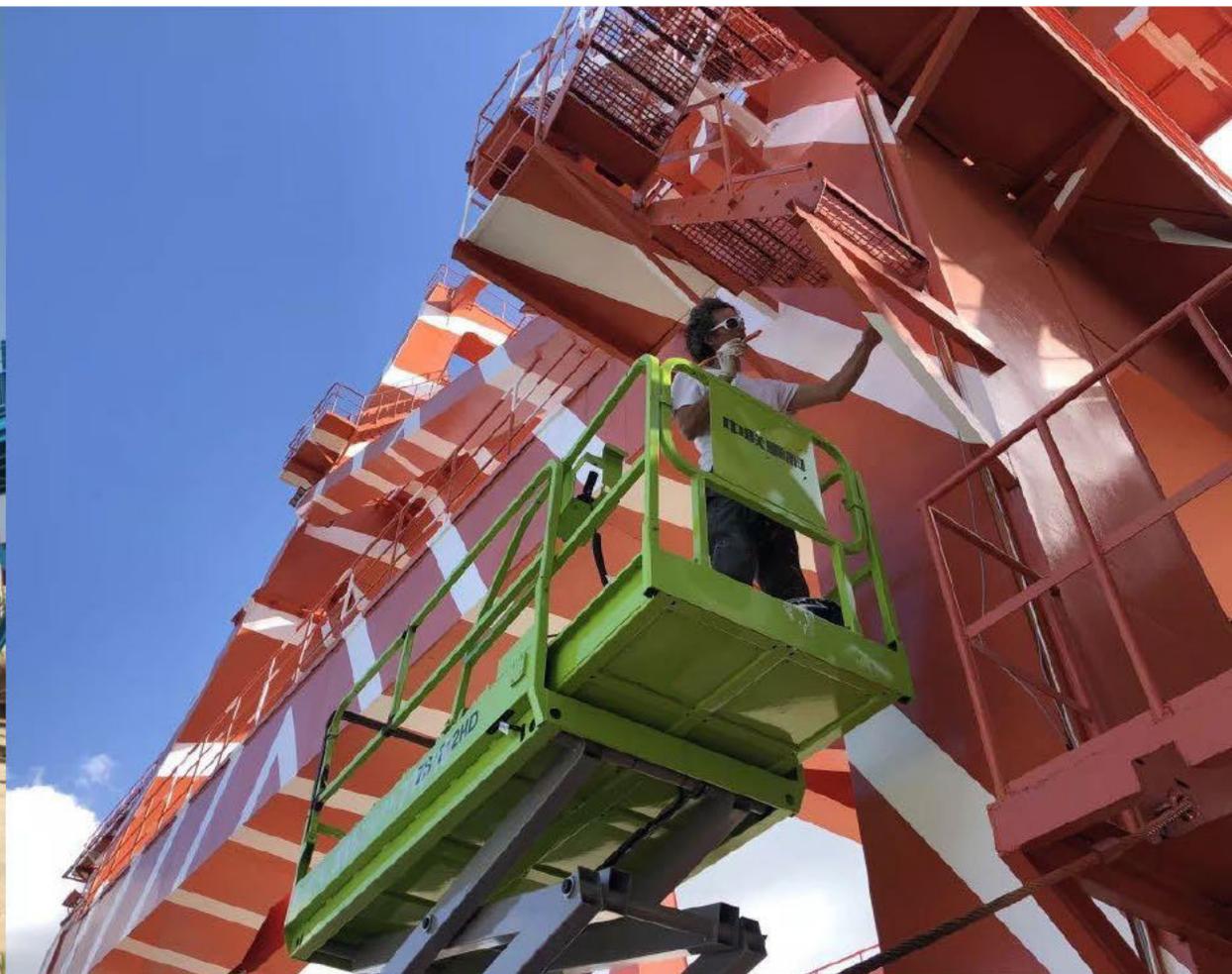
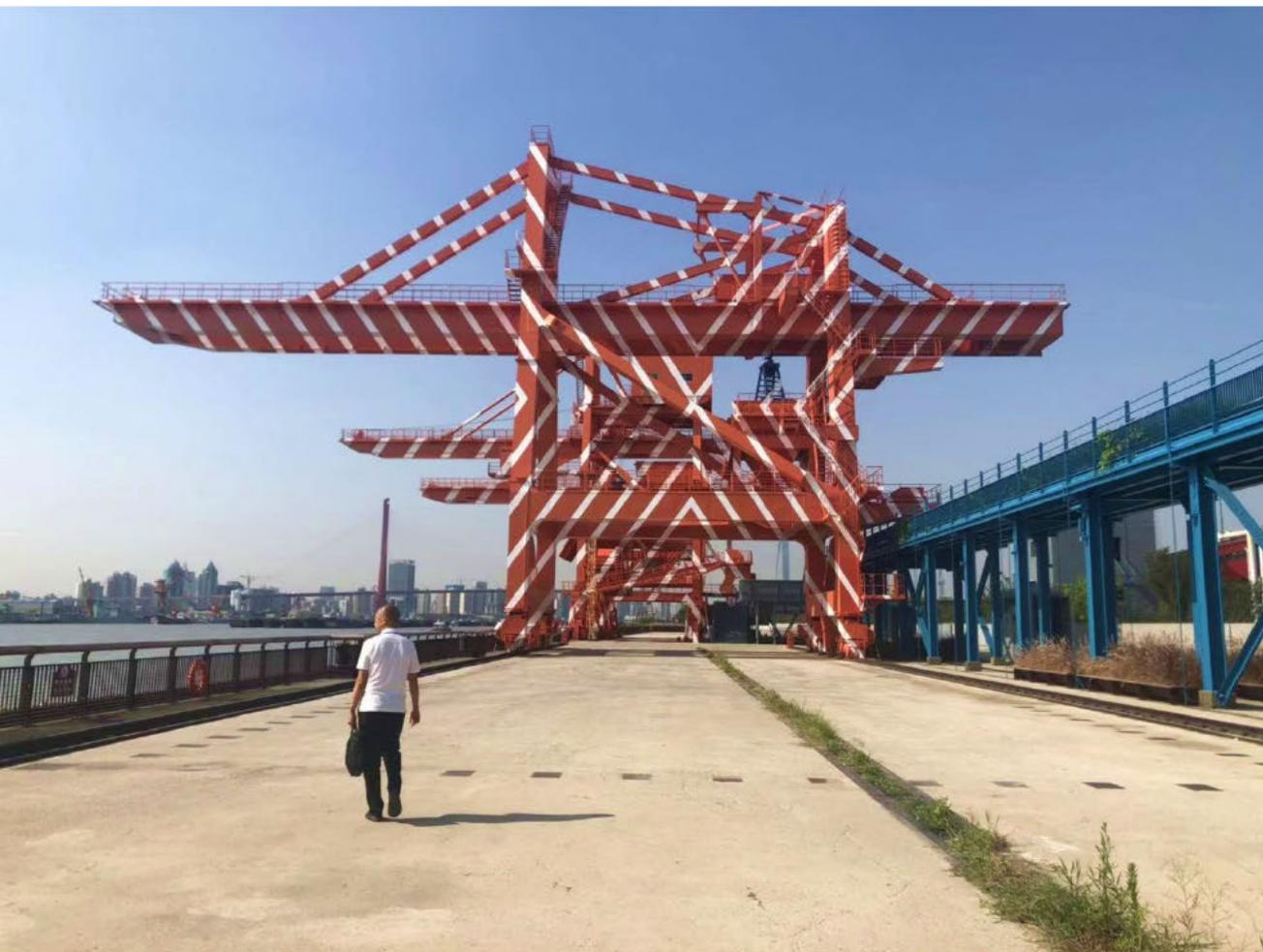
JOSÉ de GUIMARÃES "ENCOUNTER I" CY
SHANGHAI URBAN SPACE ART SEASON - SHA
LEGEND: CYLINDER 1



エステル・ストッカー



リチャード・ウィルソン



フェリーチェ・ヴァリーニ

艺术在浮梁／ART at FULIANG
中国·江西省

眞壁陸二《浮梁の共生する家》
Photo: FREAKISHNESS COMMUNITY



Maaria Wirkkala《ESSENTIAL-the BASIC is on the TOP》
Photo: 劉新征(HUBART)



Paola Pivi 《Untitled(ladder)》
Photo: FREAKISHNESS COMMUNITY



世界銀行とのプロジェクト

世界銀行: 創造都市 Creative Cities
スリランカでのクリエイティブ・シティ・パイロット・プロジェクト



経団連 地域経済活性化委員会での講演



経団連:「地域協創アクションプログラム」

北川フラムと十日町の関口芳史市長が、
「大地の芸術祭」について講演
(2021年11月4日)

芸術祭の経済効果

北川フラム